

回答していただいた方

神奈川県教育委員会 教育局 岡野 親 教育監
岡野 正之 専任主幹兼指導主事

高校入試について(制度)

【質問】高校の指導要領の改訂時期に合わせるような形で高校入試制度が変えられてきたと思うが、再来年の改訂にあわせて入試制度改革の予定などはあるのだろうか

改訂に合わせることを前提に制度改革をしてきたわけではない。制度に関しては振り子のように、学力重視とその反対方向と振れている。今は「学力重視」の方向に振れているが、このあと、また逆方向に振れるかというところはおそらく振れないだろう。主に高校側から課題を指摘されている面接検査などを含め、今の制度を検証し、制度全体の改革とするか、マイナーチェンジとするか、といったことも含めて検討している。

【質問】「特色」といいながら「共通問題」を実施しているように、現行制度にはいろいろとほころびが出ていると思うのだが、その点はどう考えるのか

ほころびが出ているとは思っていない。学力向上進学重点校という「特色」を一つのまとまりと考えている。もしも、その中で共通のテストがおこなわれたとしてもおかしいとは思わない。神奈川県として取り組んでいる施策の一つとして位置付けている学校なのだから、それに見合うような生徒を選抜すべきと考えており、共通して測るべき学力がある。一方で選択問題が各校の独自の「特色」に見合う学力を測る部分。グループとしての「特色」と各校独自の「特色」の両方を活かせる検査にしている。

【質問】県立高校の二極化が顕著になっている。そろそろ2種類の入試問題を作る時期に来ているのではないか

こういうことも含めて検討している。なかなか難しい課題。ランク分けを助長することにもつながる恐れがある。2つに問題を分けることでレッテル貼りがおこなわれてしまうことも考えられる。

コロナ禍の中で、どうやって県立高校を選んでもらったら良いのか、と考えている。ホームページの充実などをし、QRコードをつけてすぐに学校のページにアクセスできるようにもしている。

【質問】公立高校の再編・統合にあたりどのような指標で決定するのか
(定員割れが続く高校は対象となりやすいかどうか、総合学科が対象になりやすいのか)

その地域の中学校卒業生の数の推移、直近の倍率とか進学状況なども含めて総合的に判断する。指標というものはない。定員割れが続く学校だから統廃合の対象になりやすい、ということはない。

総合学科については、改革実施計画の「Ⅰ期」で一定の改革を行った。今後、総合学科ということでもさらに改革を行うということはないと思う。

【質問】 入試範囲の削減が東京などと比べて小さかった理由はなにかあるのか / 範囲削減の意図とそこに至るまでの経緯。

東京の削減範囲はずいぶん広いなと思っている。本県では決めるのに中学校の関係者とミーティングをかなりした。年度の終わりには、中学3年生で学習すべき範囲を全て終わらされると言っていた。その上で、1月末までには学べない（間に合わない）範囲を除いた。

【質問】 範囲が（一部）削減されたわけだがこれは全体の難易度に影響はあるか

難易度には影響はない。出題範囲と難易度に相関関係はない。

【質問】 倍率の偏りについては是正するつもりはあるか

倍率によって定員を決める、というようなことはあまりしていない。高倍率の学校の定員を単純に増やすといったことは、やりたくても校舎の規模（教室数）などの問題でできない。定員割れが続いている学校の定員を減らすようなことはこれまでもやっている。

【質問】 定員割れしている学校が例年増えている事に対して今後の展望はいかなるものか

全日制の進学率の向上を引き続き目指したい。今の91%からあげていきたい。最近の傾向として広域通信制に進学者が増えている。定時制は減っている。そうした新しい流れが読みにくい。コロナ禍でさらに読みきれない。コロナ禍で東京の私学に行く生徒が減るのかなという考えもある。逆に私学の助成金が充実してきたことで、かつてのように経済的に厳しい状況になると県立高校の志願が単純に増えるとも考えることもできない。とにかく難しい。

【質問】 専門学科の倍率が近年低い様に感じるが、今後の展望はいかなるものか

専門学科については、県の産業教育審議会に報告を出してもらって、それを改革実施計画に活かすということをしてきた。「Ⅰ期」にも「Ⅱ期」にも反映している。現在の審議内容は「Ⅲ期」に活かすことになる。10年後、20年後の専門高校のことを考える良い時期だと思っている。

【質問】 面接の得点差について、県教委の方の意見をお聞きしたいです。現在、面接点については、高校によって点数の付け方に偏りがあります。1.ほとんど同じ点数、2.点数差が小さい、3.点数差が大きい の3つに分けられます。1と2の高校は、合否にそれほど影響はありませんが、3の高校は、得点差に50点ほどある場合があります。50点の差もありますと、学力検査の点数を大きく逆転することが可能です。現入

試制度では、生徒会、部活の実績、特記事項などは、点数化しないことになっていますが、実際は面接点で差をつけることができるのではないのでしょうか。そもそも面接点に差があるという事実を、中学校側は把握されているのでしょうか。このようなデータは塾に通っていないとわからないと思います。面接をする意義と得点差がある現状をどうお考えでしょうか

部活を売りにしている学校などで、面接評価の差が大きいというのは、そうした学校の「特色」を活かした評価基準に基づいての判断だから問題ない。逆に差がないところがあるのも学校の判断だ。面接が機能してないとは考えていない。学校ごとの「特色」が反映されている結果であって、かまわないのではないかと。面接については得点だけの開示だが、評価については自己情報開示請求してもらえばわかるようになっている。大会に出たから、部活の部長だったからということをもって評価を高くするといった基準はない。結果の部分だけで評価していない。あくまでもそこをベースに、これまでどのような努力、工夫をしてきたのかなどの取組や、これからどうしていくのかなどの意欲を評価する。面接にあたっては研修も3回ほどやり、事前にロールプレイングもやるなど、面接する側もしっかりと準備している。

高校入試について(入試問題など)

【質問】昨年度の入試の難易度はどの程度の想定内だったのか。たとえば、社会の平均点が42.57→58.2のような急激な変化は想定内なのか

いつも申し上げているように、50点から60点の間におさまるような平均点を目指して作っている。この春は「前年、平均が低かった社会は上げなければいけない」ということで作った。その結果がこの平均点のアップになった。

【質問】あいかわらず国語はやさしく、英語との平均点の差が20点ほどになるがこのままなのだろうか// 難易度コントロールはうまくいったのか。一昨年お伺いした際は「平均点が50点に近づくように」と繰り返しおっしゃっていたが、今年の結果は狙い通りなのか否か // 以前の話では、5教科の平均点が5割程度になるように作成しているとのことであったが、今年度の国語の合格者平均はほぼ7割(69.1点)にもなる。これは適切だとの考えか

結果的に国語は易しすぎた。20点差は望ましいとは思っていないが、問題作りはそう簡単にはいかない。コントロールは難しい。とにかく50点から60点の間を目指して作っている。ただ、今春の入試の平均点は、国語を除いては近年では最も良いところだったのではないだろうか。

【質問】特色検査が(今年はちょっと難しすぎるものの)いい問題だということは分かっているが、果たしてこの検査が各校の「特色」を体現した選抜試験となっているのか // 特色検査の難易度と分量、平均点は今年度のものが適切だとの考えか。また特色の結果は、県教委の狙い通りなのか

率直に言って特色検査はちょっと難しすぎた。ただ、難しくすれば良いというものでもない。きちんと学力を測りたい。歯ごたえがある問題をやらせたい。きちんと学習を積んできた子どもたちが受験しているのだから、それに応えるような出題をしたい。

【質問】特色検査の実施方法（難易度・問題形式）について2020年度の結果を踏まえて何か変更の予定はあるか

特色に関してとくに変更の予定はない。

高校入試について(コロナ対応)

【質問】来年の受験時期にもコロナが収まっていない可能性が高くなっております。受験校によっては意味の無い面接などは今期は受験校の判断で行わないなどの措置を執った方が良くと思います。差を付けないのに一日受験校に電車で行き、そこでまとめて控え室で待ち、面接をしてまた帰ってくる。感染の可能性が高まるだけで高校にも受験生にも何もメリットはありません。

言いたいことは良くわかる。今年は密にならないように措置をとる。面接をやらない、というわけにはいかないの、コロナ対応をしっかりとしていきたい。withコロナの中でやっていきたい。

【質問】結果発表は絶対にオンライン対応にすべきです。

我々もオンライン対応にしたいが、お金がかかり、セキュリティ的にも今すぐというのは難しい。

【質問】コロナ禍のために資料のともなわない生徒の募集枠が大きくなってしまい、その結果として2次選考枠が小さくなってしまわないのだろうか // 募集定員について。合格発表後のコロナ枠に関してはどこから捻出するのか

コロナ禍での2次選考枠の圧縮についてはありえない。追加の検査(コロナ対策)については定員の外枠でとる。2次選考を圧縮することはない。コロナのための追加の検査は、そのための検査をやって合格者を決めていく。募集定員の外枠として「コロナ枠」のようなものを確保していく。臨時休校に伴い資料が整わないというのは、原則ないはず。中学校は12月までの評価はできると言っている。

その他

【質問】 Google classroomの活用状況とGIGAスクール構想への取り組み状況を知りたい。(学校が休校になった場合に備え、オンライン授業等への取り組みは進んでいるのか)

高校、中等教育学校については140校すべてで、それも全クラスでGoogle Classroomを活用中。1校で平均240クラス以上が設定されていて、積極的に利用されている。ホームルームや課題への質問対応などに利用中。ギガスクール構想については、高校は1人1台ではない。ネットワーク環境の構築が中心。今は自分のスマホを使って校内でやりとりできるように全校がなっている。スマホを持っていない生徒にはPC(ChromeBook)を貸し出している。各校に84台ずつ配備している。家にWiFiがない生徒にも4月の補正予算で、ルータを貸し出せる仕組みを作った。万が一再度臨時休校になった場合でも、家庭学習をさらに充実させて学びに支障がないようにしている。

【質問】 いくつかの高校が、休校中に未修範囲の単元の宿題を出し、休校明けすぐにそれらの単元のテストを実施していました。なにも授業をしていないのにテストを実施することはどうなのでしょう。

臨時休業中に課題を出し、オンデマンド授業などで学習したことに対して、テストをすることはまったく問題ないと思う。家庭学習でやったことも評価の対象になる。春はいろいろと混乱があった部分もあるが、徐々にうまくいくようになってきているはず。

【質問】 大学入試共通テストの日程の選択は、生徒個々の希望で選べるのか、それとも高校ごとにまとめて選択するのか。

生徒個々の申請に基づき、校長が認めるという形でやることになるかと文科省からは聞いている。

【質問】 コロナ第2派が猛威をふるい、また休校措置になった場合、学校側でオンライン授業などをするのか、また課題だけ与えて放置なのか。現時点でどこまで対策しているのか知りたいです。休校措置が終わって1ヶ月強、塾生たちの話を聞いていると、塾に行っていない子の放置状態が例年以上に大変なことになっていると、「中学生」が言っていました。

高校でも中学でも共通していえることは、家庭学習だけでは限界があるということ。放置というよりも、ちゃんとやっていた子とそうでない子との差が大きくなってしまっているのは確か。環境も同じ、学校から与えられているものも同じ、そうであっても差が出てくる。こちらから与えているものは同じはず。学校も家庭の中までは中々入っていけない。

【質問】 公立中学校の進捗格差が例年以上に激しく思います。来週期末試験の中学が複数あるのですが、中3数学の範囲は、ある中学校は展開因数分解の利用が入らない

中学があり、またある中学校は展開因数分解平方根のすべてという中学もあります。この公教育における学校間格差について、ある受験学年ではない保護者から強烈な愚痴(?)を聞かされました。「公」にこれだけ差があつていいものなのかと。保護者の不安も相当なものだと想像できます。このあたり、どのようにお考えなのか、そもそもそれだけの格差が生じていることを的確に把握されているのか、可能であれば知りたいです。

年度末にはぜんぶそろって終わる。その過程である、学校再開から間もない現時点で差があるのは仕方がない。また各中学校における年間指導計画に基づいた学習進捗については校長の教育課程の編成権に属する。中学校の関係者からは、各校ではコロナ禍の中で工夫しながら計画を組み立て、卒業までにはすべての範囲をしっかりと終わられるよう取り組んでいると聞いている。

【質問】内申の不平等が是正されて調査が終わったとあるが、現場レベルでは違うと感じる。再度調査の予定は?

再調査の予定はない。絶対評価の嵐があつて、それを是正してきたが、その“たが”が緩んでいるのではないか、という意見かと思う。全県指導主事会議や指導主事が学校を訪問するなどして、今も指導はしている。観点別評価をしっかりと積み上げて、その観点別評価に基づいた総括評価をしっかりと行うといった丁寧な作業を続けていくだけ。

【質問】学力向上進学重点校への教師への重点的な配置、及び教師の教務研修の強化はできないものでしょうか?先日、横浜翠嵐高校の生徒への聞き取りを行いました。すると、教師の教務力の不満が沢山出てきました。授業が分からなさ過ぎて担当の先生を代えてほしいという嘆願をした生徒もいたと聞きました。生徒目線から見て、いわゆる使える授業を行える教師は各教科1、2名程度とのこと。横浜翠嵐高校は予備校に行かなくても十分な指導ができることを売りにしていますが、生徒の意見はそうではない様子です。実際は高3になれば8割の生徒は予備校に通います。都立の進学重点校のように、公募制をもっと強化して、進学重点校にもっと教務力のある教師を集めることができないのでしょうか?

あまり知られていないが、進学重点校にはそれなりの人を配置している。進学重点は県の施策としてやっている。県としても学校任せにしないようにしている。公募制もやっている。手をあげてきた教員を校長が面接して配置している。確かにレベルが高い先生はそろっている。しかし相変わらずの一方通行の授業をしている教員がいるのも確か。こうしたことが言われないようにしていかないといけないと思う。

一般社団法人かながわ民間教育協会
第二部会

写真前列
左:岡野教育監
右:岡野専任主幹
後列:参加者

